SETSUNAN UNIVERSITY

バイオ・ライフサイエンス

SETSUDAI

キーワード：労働職場環境、心理的安全性、介護職

働き続けたいと思える心理的安全性のある組織づくり

看護学部　看護学科　教授
富永　真己　TOMINAGA Maki

研究の内容

背景：閉鎖的で仲間を排除する「ものが言えない職場」は、様々な問題を起こす。医療・福祉現場では仕事上のミスの引き金になり、患者や利用者の安全を脅かし、治療やケアの質を低下させる等、悪影響が国内外の研究で報告されている。人材不足の深刻さが増す介護職については、「職場の人間関係」が離職の最たる理由であるが、前述の職場風土は人材定着にまで悪影響を及ぼす。

研究目的：「嘲笑や罰を恐れずに問題をメンバーに話すことができると感じられる雰囲気（心理的安全性）」は、介護施設の職場風土の改善に資するとの仮説を立てた。研究方法として、量的調査やインタビューから実態を明らかにした。次に「心理的安全性」を育む研修プログラムを開発、効果を無作為化比較試験(RCT)により検証し、研究成果の社会実装をゴールとして目指している。

主な成果：介護現場の人間関係に纏わる問題の再現ビデオやグループでの話し合い等で構成される研修プログラムを用いて、RCTを実施した結果、研修参加群は非参加群に比べ、心理的安全性や職場での排他が改善された。一方、効果継続に課題が残り、さらなる検討が必要である。管理職向けの研修プログラムの開発ととその効果検証を現在、展開している。

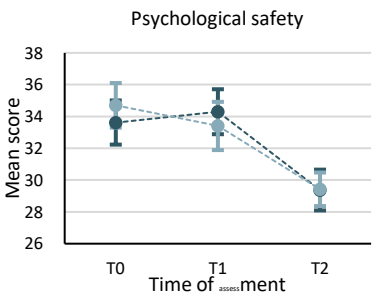


図.介入群と非介入群における心理的安全性の差の検定結果



成果物の書籍

産学連携・社会連携へのアピールポイント

排他的な職場風土は、看護師や介護職の業務上の怪我や疾病、さらに職業的幸福感にも影響を及ぼすことを研究で明らかにしました。しかし、組織風土は長い時間をかけて染みついたもので、人の本質も変えることは困難です。科学的な知見から解決に向けたアプローチが必要なのです。介護施設の高齢者や家族、働く人たちのお役に立てるような研究と成果の社会実装を目指しています。

研究業績（富永真己）

URL： https://researchmap.jp/TM006322/published_papers

お問い合わせは摂南大学 研究支援・社会連携センターまで
TEL:072-800-1160　E-mail:SETSUNAN.Kenkyu.Shakai@josho.ac.jp